

- 1 住みよいまちを力を合わせつくりましょう
- 1 きれいな緑と水と空を守りましょう
- 1 働くよろこびと心のふれあいを大切にしましょう
- 1 すぐれた教育と文化を育てましょう
- 1 明るいくらしと福祉のまちをきずきましょう

怖い水の季節!



水が恋しくなる六月。毎年このころになると悲惨な子どもの水の事故が目立ってふえます。子どもの水の事故は、四季を問わず一年中発生しているのですが、とりわけ六月・八月の夏場がピークです。梅雨期の六月には河川の増水、また太陽の照りつける七月・八月には、海・河川などでの水泳や魚とりなど、「危険」がひそんでいます。子どもを水の事故から守るため、いまだ一度私たちが子どもの安全を考えてみなければなりません。

六月・八月に多発

例年、六月には幼児の沼池や用水路での事故が目立ち、次いで七月・八月の夏休みになると、小・中学生の海や河川などでの事故が



増えています。ここで、京都府下における昨年の夏期(六月・八月)の水の事故についてみてみましょう。

昨年、府下では十三人の子ども(高校生以下)が尊い命を落としています。これは、一昨年と同数ですが、同じ六月・八月の子どもの交通事故者一人に比べると、いかに「水の犠牲者」が多いかを物語っています。学齢別では、幼児(六歳

一度と出さぬ水の犠牲者

向日市においても、昨年六月十九日に、カエルとりに来た四歳の男の子が足をとられ誤って農業用水路に転落、また、七月三十日には、二歳の女の子が遊んでいるうちに誤って深田川に転落するなど、二人もの水の犠牲者を出しています。わたしたちは、もう二度とこのようないたましい「水の犠牲者」は出たくありません。子どもを水の事故から守るには、まず安全な場所を遊ばせることももちろんですが、日頃からの家庭でのしつけと安全教育が何よりも大切です。

子どもを水の事故から守ろう

子どもたちの水の事故はそのほとんどが、本人はもちろんのこと保護者のちょっとした油断や不注意によるもので、それがとりかえしのつかない事故につながっています。

たとえば、親が立ち話に夢中になっている間に、防火用水にはまってしまったというようなケースもあります。特に、幼児の場合は自分で「危険」かどうか判断できません。親は、常に子どもの身になって、「危険」を見抜く用心深さがほしいものです。

また、子どもを水の事故から守るために、保護者は次のような点に注意しましょう。
マ子どもたちだけで、水泳や水遊びに行かないようにふだんから注意する。行くときは保護者などが同伴する。
マイカダ遊びや危険な水辺で遊んでいる子を見かけた声をかけ、安全な場所へ誘導しよう。
マ家の近くのため池や用水路、堀などがある、サクとかフタがなく危険な状態のまま放置されているときは、所有者に申し入れて早く処置してもらおう。
マ雨降りの後など川や用水路が増水しているときは、子どもを近づけないよう特に注意する。

ちょっとした油断が死を招く



〈年別・月別水死状況〉

年	6月	7月	8月	計	年間
49年	2	3	5	10	12
50年	4	5	4	13	18
51年	3	3	2	8	19
52年	5	4	4	13	18
53年	3	6	4	13	18

〈場所別〉

年	河川	海	池沼	その他	計
49年	4	3	1	2	10
50年	5	3	2	3	13
51年	3	1	1	3	8
52年	3	8	1	1	13
53年	7	1	0	5	13

〈学齢別〉

年	幼児	小学生	中学生	その他	計
49年	3	3	0	4	10
50年	5	4	1	3	13
51年	5	2	0	1	8
52年	4	5	1	3	13
53年	4	4	1	4	13

〈原因別〉

年	水泳中	水遊び中	転落	計
49年	6	1	3	10
50年	6	2	5	13
51年	2	0	6	8
52年	7	2	4	13
53年	7	1	5	13

「私たちの手で川を美しくしよう」

6月も半ば、川の水もゆるむ季節となりました。あなたは「川」という言葉から、どんなイメージを浮かべますか。滴々と水をたたえ悠々と流れる川、また最近では、ともすれば汚れてきたない川を想像されるかも知れません。川は私たちの生活にはなくてはならない大切なものです。大量の雨水を安全に流下されて水害を防ぐことはもとより、工業用水、農業用水として必要な水を供給するなど、昔から計り知れない恩恵を受けています。しかし、この川にも都市化の波が押し寄せてきて、暮

らしに直結する川の面影が薄れていることも事実です。たとえば、川の水が汚染され、魚の姿をみることもできなくなった川、ゴミの浮いている川——この「母なる川」を汚すことは、すなわち私たちの生活自体を汚すことにつながるのです。私たちの生活に潤いを与えてくれる水と緑のオープンスペースは、なんとしても私たち自身の手で守り抜きたいものです。みんなの努力で川を美しくしましょう。■向日市 川を美しくする会■

